音楽に触れる 親子で楽しめる 楽器体験イベント

楽器ばんぱく

2025年12月7日(日)に「楽器ばんぱく」を開催しました。高砂クリニック小児科の親子に案内し、13組30人が、地域コミュニティ棟みみっぱに集まり、会場は皆さんの笑顔と活気あふれる音色でいっぱいになりました。

この企画は、普段とは違う場所で、文化芸術を通して、家族の皆さんとスタッフが立場の違いを越えてフラットに交流したいという想いで、高砂クリニックとアートリンクセンターで企画しました。

当日は、公益財団法人堺市文化振興財団事業課の常盤成紀氏をファシリテーターとしてお迎えし、ワークショップを実施しました。ジェンベやカホンなどのたたく打楽器や、ヴァイオリンなどの普段触れる機会の少ない楽器に自由に触れる時間となり、賑わいのある交流の場となりました。

ワークショップでは、「触ってみよう」「音を出してみよう」という子どもたちの素直な好奇心と衝動が主役になりました。大人が何かを教えるのではなく、子どもたちが生み出した表現を、大人たちが温かく受け止める、本質的なコミュニケーションが成立し交流が図られました。

イベントを通じて、みみっぱは笑顔があふれる交流の場となり、子育て世代との貴重な交流の場となりました。また、クリニックに通われている親子の方々に地域コミュニティ棟みみっぱを知っていただく良い機会にもなりました。

これからもこのようなアートや文化交流の場を通じて、参加者の皆さんがご自身や家族の健康について意識できるような機会を、継続して作っていきたいと思います。

（耳原アートリンクセンター）

お母さんも子どもさんと一緒に演奏　カホンは座って叩く楽器です(右端)

みみっぱ

みみはらグループ堺区エリア

医療と介護と暮らしの連携　しゃべろうよ企画

これからの連携をつくる交流会

昨年4月に介護事業部と訪問看護ステーション・訪問介護ステーション堺・耳原ケアプランセンター堺、11月には、みみはら在宅クリニックが堺区大仙西町のコミュニティ棟に移転しました。同じ敷地にひまわりの家大仙西も開設。隣には耳原歯科診療所もあります。大仙西エリアに、地域包括ケアステーションができました。

耳原総合病院では急性期医療整備をすすめています。急性期（治す医療）と包括期と慢性期（支える医療）、暮らしを支える介護・ひまわりの家・薬局との連携。これまでも多くの連携の実践はありますが、みみはらグループ堺区エリアの財産（資源）を最大限に活かすための「連携」を、これまで以上に発展させていくことが大切と考えています。これからの「連携」を考えていくために、「顔」の見える連携のはじめの一歩として「これからの連携をつくる交流会」を開催しました。

堺区エリアの全事業所から51人が参加し、職場紹介、今頑張っていること、これからの連携についてなど、ざっくばらんに発表し合いました。ケアマネージャー、医師、看護師、薬剤師、介護福祉士、事務など職種は様々「地域の医療・介護・暮らしを支える連携を事業所、職種を超えてすすめていきたい」との思いが伝わる交流会でした。

「なごやかな雰囲気で参加しやすかった」（ケアマネ）・「こういう交流会には初めて参加。他の職場の話も聞けて、自分の職場の紹介もできて、とてもよかった」（介護職）・「気軽に参加して交流できる場がまたほしい」（介護職）「楽しかった」（病院職員）など、感想もいただきました。

医療・介護・暮らしが厳しい状況の中では、社会保障を良くしていく取り組みも大切です。「安心して住み続けられるまちづくり」を目指して、様々な方と「連携」を進めていきたいと思いました。

（同仁会本部
NPO結いの会
ともうず　山崎則子）

まちの医療機関がなくなる危機　まもろう！地域医療　シリーズ5

「友の会」と力を合わせ、必要な時に必要な医療が受けられる権利を守ろう！

地域住民が、必要な時に必要な医療を受けることは、憲法25条で保障された国民の権利です。

まちの医療機関がなくなれば、住み慣れた地域で安心して住み続けることが困難になり、地域経済だけでなくまちそのものの存続も危うくなります。

こうした状況の中、「健康友の会みみはら」は、職員と力を合わせて「請願署名」の取り組みを進めています。「友の会」の行事・班会・サークルに参加している人に呼び掛けるだけでなく、病院・診療所の玄関前行動、地域訪問行動、宣伝行動などにも参加して、友の会として集めた署名は既に3000筆を超えています。（2025年12月末時点）

また、機関紙「とも」に折込んだハガキ署名には、全国から3000筆近い返信が寄せられており、全国にいる会員の強い想いを実感しています。

この間の取り組みは、2025年度補正予算や次年度診療報酬改定報道にもみられるように、確実に国を動かし始めていますが、まだ、地域医療をまもり安心して住み続けられるまちを実現するための水準には程遠いものがあります。さらには、診療報酬が上がっても、国民や患者への負担が強まっては意味がありません。医療をはじめとした社会保障制度そのものの改善・充実も必要です。

いつでも・どこでも・だれでも必要な医療が受けられる「国民の権利」としての医療実現に向け、引き続き「友の会」と力を合わせて、取り組みをすすめていきましょう。

（健康友の会みみはら
事務局　篠原　聡）